

仙台市公民館運営審議会議事録

(令和4年7月定例会)

○ 日 時

令和4年7月7日(木) 午前10時00分～12時00分

○ 会 場

生涯学習支援センター 5階 第一セミナー室

○ 出席者

[委員] 相澤雅子委員、大内幸子委員、幾世橋広子委員、佐藤正実委員、菅原正和委員、鈴木京子委員、牧靖子委員、松田道雄委員

(欠席：市瀬智紀委員、伊藤美由紀委員、熊谷敬子委員、福士定男委員、三浦和美委員)

[事務局] 生涯学習支援センター長 武者
生涯学習支援センター次長 内海
生涯学習支援センター事業係長 横山
青葉区中央市民センター長 佐々木
宮城野区中央市民センター長 石川
若林区中央市民センター長 梅沢
太白区中央市民センター長 猪股
泉区中央市民センター長 内海
生涯学習部長 柴田
公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
市民センター課長 佐藤
(欠席：生涯学習課長 田村、地域政策課長 市川)

○ 傍聴人

なし

○ 資 料

次第

資料1：若者社会参画型学習推進事業の成果と課題について(事務局まとめ)

資料2：市民センター事業説明書「若者によるまちづくり実践塾」

資料3：市民センター事業説明書「仙白園プロジェクト・人」

資料4：本日の協議の進め方について

資料5：仙台市公民館運営審議会日程(案)

※ 会議の概要

1 開 会

事務局：それでは定刻となりましたので、本日の会議を始めさせていただきたいと思います。

本日はお忙しい中、また梅雨が戻ったようなこの天候の中、お集まりいただきまして本当にありがとうございました。

ただいまから、令和4年7月の仙台市公民館運営審議会を開催いたします。

初めに、資料の確認をお願いいたします。

次第と、それから資料1～5を事前送付しております。また、グループ討議時のレイアウト図を、本日お配りしております。皆さんお手元にお揃いでしょうか、よろしいでしょうか。

そのほか、今回の審議に係る資料ではないのですが、松田会長から、「仙台市の大学で生涯学習・社会教育を学んでいる大学生が、5月公民審資料から学び考えた提案書」をいただきましたので、本日机前にお配りしております。こちらの資料につきまして松田会長より一言ご説明お願いいたします。

会長：皆さんおはようございます。お忙しいところ恐れ入りますが、私、大学の授業で社会教育主事課程の科目の担当をしております、そちらの授業では、ホームページで仙台市の市民センターの取り組みを調べてみましようとか、そういったことも今までしていたんですけども、今回もうちょっと深掘りさせていただいて、公運審は原則公開ですので、公運審の会議資料を読んでみようというところで、ちょっとトライさせてもらいました。

時間ないところで、しかもまだ大学生ですので、なんかいろいろ全然わからないところで、どんな意見が出るのかなと思ったのですが、ちょっと参考に——後ほど目を通していただければありがたいです、よろしく願いいたします。以上です。

事務局：はい。先生ありがとうございました。

本日は市瀬委員、伊藤委員、熊谷委員、福士委員、三浦委員以上の5名から欠席のお返事をいただいております。

よって本日は8名の委員の皆様にご出席いただいております、委員の過半数である7名以上の出席を満たしておりますので、市民センター条例施行規則第10条第3項の規定により、有効な会議として成立しております。

続きまして、事務局より本日の出席職員についてご報告いたします。

生涯学習課長の田村、及び地域政策課長の市川の両名につきましては、本日は勤務の都合により欠席しております。あとは全員出席ということでございます。

それでは議事に入りますので、ここからは松田会長をお願いいたします。

会長：はい、改めてよろしくお願いいたします。

この会議は原則公開となっておりますが、傍聴のご希望はありますでしょうか。

事務局：本日はございません。

会長：はい。では、次に議事録の署名委員です。

名簿順で前は市瀬委員にお願いしました。今回は本来、伊藤委員の順番ですが、伊藤委員は欠席でいらっしゃいますので、次の順番の大内委員にお願いしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

2 協 議

会長：ではさっそく、2の協議に入ります。

「若者社会参画型学習推進事業」について、事務局より説明お願いいたします。

今までと同様、その後グループ討議の予定を考えておりますので、皆様方向を発言したいかというのを踏まえた上で聞いていただけるとありがたいです。よろしくお願いいたします。

事務局：はい。それでは、資料1についてご説明いたします。お聞きください。

「若者社会参加学型学習推進事業について」でございます。

この若者社会参画型学習推進事業につきましては、若者の地域づくりへの参加や、様々な人々との学び合いを通して、身近な地域をより良くすることへの意識を高め、自発的・主体的に行動しようとする人づくりを推進することを目的に、平成22年度より取り組んできた事業でございます。

次に成果と課題でございます。

これは期別に分けておまして、第1期といたしましては、平成22年から24年までの3年間を設定いたしております。

この中では、若者が身近な地域をより良くすることに関心を持ち、自発的・主体的にかかわりを持てるよう「若者によるまちづくり実践塾」という事業名でそもそもスタートしたものでございます。

事業の成果と課題でございます。一つは、若者の地域づくりへの関心を一定程度は高めることができたという成果がございました。その一方で、3年間というスパンでは、若者の自発的・主体的な行動を十分に引き出すまでに至らなかったといった課題もございました。

これを受け、第2期は平成25年度から29年度で、5カ年というスパンを設けております。ここで、現在の事業名であります、「若者社会参画型学習推進事業」という事業名に変更しております。

この事業では、参加者が達成感を感じるにより、社会・地域に自発的、主体的にかかわるためのプロセスを重視しながら、学びの支援を進めてまいりました。

成果と課題でございます。受講者のコミュニケーション力や調整力が向上したということが一つあります。それと、表現力や発信力、交渉力、企画力の向上も図ることができたというメリットがございました。それから、若者に自主企画、自主活動という意識が生まれ、自己有用感の向上あるいは意欲的に参加するなどの変容が見られた。前年度の受講者が講師役となり、新たな受講者にスキルを伝える姿も見られるようになってきたと。一方で、学生も非常に忙しいということもございまして、長期的、継続的な参加がなかなか困難な面もあるという点も見えてまいりました。それから高校生。大学生だけではなくて、高校生への対象拡大の検討であるとか、もう少しこの事業PRをして、より多くの若者に参加していただくと。そういった工夫が不可欠であろうといった課題も見受けられたところでございます。

これを受け、次に第3期としまして、平成30年度から令和2年度まで事業を実施してまいりました。

ここでは、事業の実態に応じながら、事業参加者間の世代交流を図り、加えて高校生や専門学校生、社会人への事業広報にも力を入れてまいりました。

2 ページ目をご覧ください。成果と課題でございます。

参加者が地域住民と交流を図りながら、コミュニケーション力や傾聴力、実行力を発揮することができた。という成果が見受けられました。しかしながら、その一方で、やはりこの頃からコロナウイルスの感染拡大の影響が見られまして、どうしても行動が制約されるということで、互いの組織を、取り組みを、学び合う機会を持つことができなかつたということがございました。

ここまでの事業を実施してみて、令和3年度から、こういったその複数年度にまたがる期を設けずに、年度ごとにPDCAサイクルで事業を展開し、その成果と課題をその都度、明確にし、次の年度に活かすという方向に展開したところでございます。

参加者が、地域で活動してみたいという意欲の喚起や自分自身の成長を実感できるよう、主体的に学習ニーズや地域の資源、現代的な課題等にかかわる学習プログラムを設定し、地域活動への参加あるいは地域で活動している人々との交流など、様々な取り組みを昨年度は実施したところでございます。

その中で成果の一つは、その地域の課題等の解決に取り組もうとする意識を高め、主体的・意欲的に行動できるような人材が、育成された、育成されつつあるということだろうと思います。一方で、やはり、この間もコロナ——昨年度もコロナの影響が非常に大きいということがありまして、互いの取り組みを共に学び合う機会を持つことができなかつたということが、課題としてあげられるかと思えます。

こうした成果と課題を今見てまいりましたが、コロナ禍という制約は相変わらず続くわけでございますけれども、やはりまず地域活動に携わっている人々と若者との交流の場を広げまして、主体的・意欲的に活動できるような人材の育成を今後目指していく、それは大事であろうというふうに考えております。

事務局からは以上でございます。

会長：ありがとうございます。

何か今の資料1についてご質問、ご意見あおりでしょうか。

〔質問なし〕

会長：よろしいでしょうか。はい。

では、続いて、具体的な事例について説明をお願いいたします。

事務局：はい。

続きまして、事業の具体的な実施状況の一例といたしまして、青葉区中央市民センターが実施しております「若者によるまちづくり実践塾」、及び、若林区中央市民センターが実施しております「仙白園プロジェクト・人」をご紹介したいと存じます。

それでは、まず「若者によるまちづくり実践塾」に関しまして、青葉区中央市民センターより

ご説明のほどお願いいたします。

青葉区中央市民センター長：はい。それでは少々お時間いただきまして、青葉区における取り組みについてご説明をさせていただきたいと思います。

青葉区におきましては、「若者によるまちづくり実践塾」という名称で事業をしております。

例年、若者に集まっていただいておりますけれども、こちらのほうから、これをやりましょう、あれをやりましょうということを当初から提示するようなことをあまりせずに、集まっていた若者たちに自主的な意見も出していただきながら、何をやりたいのというのをハンドリングするような形で、例年事業を展開しております。

昨年3年度は、若者に話し合っていたいただいた結果、テーマを「若者視点による青葉区の魅力発信」ということで、若者たちが興味を持った様々な地域資源を取材するとかいった活動をしていただきましたけれども、ご存じの様に昨年コロナもあって、学校のほうも活動制限が入って集まれないとか、当初は知らない大学の人たちが集まってフリーにお話しをしてもなかなか話が弾まないという状況もあったのですけれども、そこは時間の経過とともに、少しずつ参加している若者の皆さんも打ち解けてきて、途中からは、うちが設定した定期の集まり以外にも自主的に活動していたりという姿が見えるようになって、主体的、意欲的に活動していくようになってきたというのが我々からも見えてきましたし、参加している若者たちにもそういったことを感じとっていただけたのではないかなと感じているところです。

詳しくは今から担当の主査のほうからご説明させていただきます。資料2の説明書とスライドも使いながら、ご説明させていただきたいと思いますので、よろしくご説明いたします。

青葉区中央市民センター主査兼社会教育主事：それでは、ただいまより、当センターの若者事業についてご説明いたします。

お手元の資料に写真を織り交ぜながらスライドで紹介を進めていきたいと思いますので、スライドのほうにご注目いただければと思います。それでは始めさせていただきます。よろしくご説明いたします。

[スクリーンに資料投影]

青葉区中央市民センター主査兼社会教育主事：まずは、当センターの若者事業のねらいですが、若者が活動を通して、自己の物の見方や考え方を広げたり、地域への関心を高めたりできるように支援していくことで、将来の地域の担い手として自発的・主体的に行動できる人づくりにつなげていくことをねらいとしております。

対象ですけれども、10代後半から30歳まで。登録者数は今年度に関しては13名。すべて大学生となっております。昨年度から5名の継続参加があります。

では、さっそく、ここから昨年度の活動を紹介しながら、事業の説明をいたします。

主な活動の内容として、毎月1回程度定例会を実施しております。定例会の主な内容といたしましては、活動内容の検討、あと活動の振り返りなどを定期的に行っております。

昨年度は、活動テーマを「若者視点からの青葉区の魅力発信」といたしまして、発信するためには、まずは青葉区の魅力を知る必要があるということで、自分たちでフィールドワークのエリ

アや対象を検討し、絞り込んでいくための話し合いを定例会で進めてまいりました。

また、新型コロナへの対策として、リモートも活用して実施しました。

昨年度は、2つのグループに分かれて活動を行いました。

1つ目のグループは、集めた情報を発信するために、動画制作に取り組むことにしました。

仙台城周辺と作並周辺地域で、フィールドワークを行いました。ここで動画を一つご覧いただきたいと思います。

〔動画「若者が制作した動画（作並編）①」再生〕

青葉区中央市民センター主査兼社会教育主事：こちらの動画は、男子学生が、自分たちで撮影をして、個人のスマートフォンで編集したものになります。

編集した男子学生は、生まれて初めて動画編集をしたという話ですけれども、なかなか、そこそこの出来かなと思います。

ちょっと飛ばしまして、こんどは仙台城周辺のフィールドワークをもとに集めてきたものなんですけれども、基本的には動画編集が初めてというだけあって、写真をただつなげただけの、言ってしまうとスライドショー的な動画というふうになっています。

こちらの、今ごらんいただいた動画を、今度はグループのメンバーで意見交換をして検討する場を持ったんですけれども、その際に女子から少し厳しめの注文や意見を寄せられてしまいました、おかげで男子のハートに火がついたというような形になります。

ここから男子が、追加取材をしたい。と申し出まして、あらたに編集した動画がこちらになります。さて、どのように編集し直したのか、再びご覧いただければと思います。

〔動画「若者が制作した動画（作並編）②」再生〕

青葉区中央市民センター主査兼社会教育主事：若干、演技が棒読みですけれども、今度はシナリオ仕立てにするというところを、男子学生が考えて実際にやっています。

こういう形で、女子も注文つけるだけではなくてナレーションで協力するという形で、大分、グループの方も雰囲気もよくなりながら、編集を進めてきたというところです。

ちょっとお蕎麦屋さんにも行ったんですが、一旦飛ばしたいと思います。

取材範囲があまり多くはなかったのですが、載せられている情報は多くはないんですけれども、同年代の学生であったりとか同世代の人間に対して、ちょっとPRするために自分たちなりにシナリオ仕立てにして工夫してみたという動画でした。

もう一つ、仙台城周辺のバージョンも本当は制作していたんですけれども、やはり新型コロナの第6波の影響により、編集作業がちょっと中断してしまって完成できなかったのが心残りだというふうに本人たちは言っていました。

続いて、2つ目のグループの活動の紹介をしたいと思います。

こちらのグループは、若者が気になるスポットを取り入れたマップづくりをしたいと思いますということで、意見を出し合っささまざまなマップの比較検討を進めました。

青葉神社への取材や、奥州街道を南に向かって歩き、柏木のエリアにある、妖精の家という、きのこの外観をした雑貨屋への取材も行いました。

マップづくりを進めるうえで、よくあるマップではなくて、どうすれば自分たちなりのマップをつくれるのだろうかというふうに考え、ちょうど昨年8月に青葉区中央市民センターで開催されていたイベント「どこコレ？」を見学していたことが大きなヒントになり、続けて風の時編集部の佐藤正実さんにお話しを伺いまして、いろいろとマップづくりのための助言や視点をいただきました。

参加者は定例会以外の日も、自ら集まり検討を重ねてまいりました。昔の写真と比較するための定点撮影にも取り組み、素材を集めました。

完成したマップがこちらになります。実物はお手元の資料としてお配りしておりますので、ぜひご覧いただければと思います。

中を開くと奥州街道が——いろいろなスポットが紹介されておりますけれども、若者がここに興味を持ったのは、新しい建物と昔からの街並みが混在している奥州街道に興味を持ったことがきっかけでした。あとは自分たちのオリジナリティとして、閉じていただくと観音開きの所の左側と右側が、奥州街道の新旧の風景を比較するようなつくりになっておりまして、こちらも学生のアイデアによるものです。

では、ここからは、今年度の活動についてお話ししていきます。

今年度は、昨年度つくった、今お手元にある奥州街道のマップをいかに活用していくかということを考えて進めていきます。

今、出ているアイデアとしては、実際に若者がこのマップを使って、まち歩きガイドを務めてみる、あるいは地区市民センターと連携をしながら、例えば講座のところで何かかかわることができないかといったようなことなども、今検討しているところです。

この、進めている若者事業が、若者にとって地域を知り地域を考える、そういうきっかけにならなければならないためには、まち歩きが非常に有効であると考えております。街を歩きながら、ここになぜこれがあるんだろうと、ここは昔どうだったんだろうと、そういったことに興味を持ち始めると、少しずつ、まちづくりについて考えるきっかけになっていくのではないかなと考えております。このような効果を期待しながら、今年度も事業を進めていきたいと思っております。

最後に、成果と課題です。

参加者が活動を振り返ったものですが、録音した音声を、少しお聞きいただければと思います。昨年度の成果報告会で発表したものになります。

[参加者音声再生]

青葉区中央市民センター主査兼社会教育主事：ほかにも参加者の振り返りの中には、相手にとってわかりやすく伝えるということは、社会人になってもいきてくる力だと思う。同年代の若者に興味を持ってもらえるようにするために、発信の仕方を、工夫していくことが大切だということがわかった。などという言葉があり、今後の生活にも生かせるような気づきや学びを得ることができたという振り返りが見られました。

あとは、実際に動画を制作した男子学生は、これからの生活の中で、街の見え方が変わってきた。というふうにお話しをしておりました。

続いて、課題です。

課題は先ほどのところでもあげられていましたけれども、参加者の確保が難しいというのが、

若者事業の共通した課題としてあると思います。

そのためには、事業 PR も工夫を進めていく必要があると思うのですが、今年度、大学が学生向けにポータルサイトというものを運営しているかと思うのですが、こちらに募集情報をアップしていただくことはできませんかという相談も大学にさせていただいたりはしておりました。

こういった形で、参加者へもなるべく目に触れる機会をふやしていくことが、大事なかと考えております。

最後です。ここに「受け身がちな参加者」と書いたのですが、近年の参加者の実態として、例えば、何をやってみたい？とか、取材してみたいところはありますか？というふうに尋ねると、なかなか反応が薄く、これといった意思というものが、ちょっと伝わってこないかなという実態を感じます。話をしているときは目をしっかり見て話を聞いてくれているので、真面目だなという印象は持っているのですが、ただ積極的に意見を述べるのが、そんなに多くはなくて、全体的に受け身だなというイメージを持ってしまいがちなところがあります。

かといって、何でもかんでも、こちらからお膳立てをしてあげてしまえば、主体性を高めるところにつながっていかないと思いますので、ある程度ヒントを与えながら、方向性が定まってきたところで、さらに追加してヒントや資料を提示していく——例えば、今年度で言いますと、「どこコレ？」に見学に行くように設定してみたりですか、専門家の方から助言をいただく機会を設けるとかですね、あとは、言葉で伝えてもなかなかイメージを持ってもらいにくいので、まずは体験ということで、フィールドワーク「まち歩き」に連れて行って、実際に街を見てもらう、地域を知ってもらう、というところを行っておりました。

若者の考え方としては、与えられるのではなくて、自分たちで考えた、自分たちで決めた、自分たちでつくったという経験を積み重ねていくことで、事業に対する楽しさやおもしろさというのを実感していくのではないかと考えます。

最後になりますが、やはりそういう参加者のちょっとした変化であるとか、ちょっとしたよさを取り上げて評価してあげるといことがすごく大事だと思います。だんだん視野が広がってきたんじゃないとか、いいところに気づいたねなんて声をかけてあげると、だんだん参加者も楽しさが増えてきて、自分たちが主体性を持って活動しているという自覚を促していくことができるのかなと思います。活動そのものが楽しくなれば、次第に地域やまちづくりに興味を持てるようになっていくのかなと思いますので、そういった活動を積み重ねながら、参加者の変容につながる学びの支援に、今後も取り組んでいきたいと思っております。

ご清聴ありがとうございました。これで青葉区の発表を終わります。

事務局：はい。ありがとうございました。次に若林区中央市民センターより発表いたします。

若林区中央市民センター長：続いて、若林区中央市民センターから発表させていただきます。

若林区中央市民センターからは「仙白園プロジェクト・人」ということで、この事業は平成 22 年から続けておまして、今年で 14 年目になります。

長らく使っている名称ですが、仙台白菜という地域資源を上手に生かして、若者事業だけではなく、子ども事業の参加者ですとかジュニアリーダーなども巻き込んだ好事例であるというふうに自負をしております。

ビブスを着けている子が小中学生のボランティアのチャボ！のメンバーです。一緒に活動したチャボ！メンバーにですね、種クイズとか、野菜クイズを出して、交流することも大切にしてきました。

それから、仙白園で収穫した野菜を、高齢者の配食サービスや子ども食堂を運営している NPO 法人あかねグループへ届けました。その際に、この NPO 法人あかねグループの理事の原さんからお話を伺いました。昨年度は様々な大人の方からもお話をさせていただいて、その活躍している方たちの思いだったり、考えだったりを若者に吸収させたいなと思いました。

この畑での活動を通して、どんなことを感じたかっていうことを、若者に実際に話してもらいましたので、こちらの動画をご覧ください。

[動画「畑での活動を通して」再生]

若林区中央市民センター主査兼社会教育主事：音声のほう聞こえましたでしょうか、大丈夫でしょうか、はい。ありがとうございます。

次に、わたしのふるさとプロジェクトでの代表として活躍している、大内さんの話を聞きました。

パネルのようなものが並んでいるのですけれども、あの写真は、実際に東日本大震災のときの、こちら東部六郷地区の被害の様子の写真を並べたパネルです。そちらをもとにしてお話ししていただきました。

東日本大震災で甚大な被害を受けた東部六郷地区です。震災からの復興や、にぎわい再生に向けて行った、お祭りや鎮魂の花火などの取り組みについて、そして、大内さんの生き方や温かい思いについて学ぶことができた非常に有意義な時間となりました。

この大内代表のお話を聞いて学んだこと、また若者の感想、動画がありますのでご覧ください。

[動画「大内代表の話を聞いて」再生]

若林区中央市民センター主査兼社会教育主事：続いては、小中学生ボランティアのチャボ！それから、中高生ボランティアのジュニアリーダーと深沼海岸のビーチクリーンを行った写真になります。

実際に活動してみると、こちらはごみ袋なんですけれども、30分ずつ交代にして、これぐらいのごみが集まりました。想像以上のごみがあるってということがわかって、びっくりしていたようです。あと時間がちょっと——バスの関係もあったので、途中で切り上げてしまったのですが、またやりたいとかというのがどの年代からも聞かれたので、また、今年度も時間見つけて取り組んでいきたいなと思っていますところ。

ここで、毎月集まって深沼ビーチクリーンの活動をしている、庄司さんと佐藤さんからもお話を伺いました。ふるさとへの思いや震災復興についての取り組みなど、たくさんのことを学ぶ機会となりました。

ビーチクリーンを通して学んだことを、また若者の感想動画にまとめてあります。ご覧ください。

[動画「ビーチクリーンを通して」再生]

若林区中央市民センター主査兼社会教育主事：続いては、JR フルーツパーク仙台荒浜というところ
です。

こちらの、事業所長の渡部さんからお話をいただきました。震災復興の取り組みだったり、荒
浜にもともと住んでいた方への温かい思いなど、たくさんのことを学ぶ機会となりました。

ちなみに、きょうは写真を載せてこなかったんですけども、フルーツパークの中にある道路
がもともとの荒浜の道路を残してあって、例えば横断歩道とかがそのまま残ってたり——ってこ
とで、そういうところをあえて残す。住んでいた方の思いをくみとるような、こういう仕事をし
ているということで、本当に私も大人としてもすごく勉強になったなということでした。

若者の感想を、またまとめてありますので、ご覧ください。

〔動画「渡部さんの話を聞いて」再生〕

若林区中央市民センター主査兼社会教育主事：こちらは、令和2年度から始めた、仙台絆サイダーと
いうものを販売しているものです。売上金を先ほど紹介した「わたしのふるさとプロジェクト」
へ寄附して、鎮魂の花火の資金にしてもらおうという活動です。

幼稚園のバザーだったり農業園芸センターの収穫祭、あとはビーチクリーンなどの会場で協力
して販売しました。自分たちにできることを考えて行動しました。令和3年度も売上金をわた
しのふるさとプロジェクトへ全額寄付し、鎮魂の花火の資金にさせていただきました。

発注が約1,000本なんですけど利益は6万8000円で、こちらを寄附させていただきました。

こちらの活動を通しての感想です。ご覧ください。

〔動画「サイダー販売と募金を通して」再生〕

若林区中央市民センター主査兼社会教育主事：やはりサイダー販売をしていると、すごくほめていた
だくことが多いです。これなんでつくったのとかなんで頑張っているのなんて質問を受けるん
ですけども、そのたびにほめていただいて、若者たちの今後の活力になっているのではないかな、
なんて思っております。

真冬に打ち上げる鎮魂の花火では、ボランティアスタッフとして活動してきました。

最後に、成果と今後の展望についてです。

令和3年度は若林区で活躍する方々に出会い、その方々から話を伺うことで、その人たちの生
き方や温かさ、地域への思い等たくさんことを学びました。自分もこんな大人になりたい。こ
れからも地域が明るくなるようなことを行いたい。誰かの役に立てることがあるのなら行動した
い。など、体験を通して気づきや学びを得て、そこから実際の地域貢献活動につなげることが
できました。

今後の展望については、これまでの取り組みを大切にしながら、新しい発想も取り入れていき
たいと思います。

それらを踏まえて、今年度の活動は、若者が育てた野菜を親子で収穫する体験会を実施して
みました。また、8月になるんですが、子ども食堂の利用者を招待して夏野菜を収穫する体験会を
現在企画しているところです。さらに9月には、荒町市民センター跡地の齋藤七五郎記念元気広
場を活用した「大学生が考える児童館祭りin元気広場」を企画しています。荒町小学校の全児童

にチラシを配り、小学生が楽しめる時間をつくりたいと考えているところです。

今後も若者の気づきや学びを大切に、若者が考える、地域貢献活動につなげていけるといいなと思っております。

以上で、若林区若者社会参画型推進事業、若林区中央市民センター「仙白園プロジェクト・人」についての説明を終わります。

ご清聴ありがとうございました。

会長：ありがとうございました。

それでは、これからの進め方ですが、前回同様小グループで深め合いたいと思いますが、皆様方がいかがでしょうか。ちょっと人数も少ないところではあるんですが。よろしいですか。

はい。ではちょっと事務局から進め方についての説明をお願いいたします。

事務局：はい。それでは、グループ討議の進め方でございます。

基本的には前回同様、3つのグループに分かれていただいて、区中央市民センター長も中に入って、色々話し合いたいと思います。話し合いのネタとしましては、資料の1と今、発表いただいた2事例、これをどのようにしたらもっとよりよい事業になるのか、今後期待することも含めてですね、様々なご意見をいただければというふうに思います。

それでは3つのグループにさっそく分かれていきたいと思いますので、準備の方進めてまいります。

会長：では、一つよろしくをお願いいたします。

[グループ討議]

会長：はい、ありがとうございます。では、みなさんホワイトボードの方の最初グループ1から行きますか。情報共有させてください。グループ1でどんなお話になりましたか、ひとつ報告をお願いします。

事務局（第1グループ担当職員）：はい、グループ1発表させていただきます。

青葉区、若林区の事業それぞれによいところ、ここを改善したらもっとよくなるんじゃないかというところでお話しをさせていただきました。

まず青葉区に関しては、活動内容の自由度が高いということ、これが意見として出されました。若者主体で何をしたいか考える、そこが主体性につながっていくんじゃないかというお話が出ました。

若林区の方は、やはり地域貢献活動がさまざま行われているということで、地域の人から感謝をされるということ若者にとって自己有用感の向上につながり、それが活動のモチベーションにつながっているという意見が出されました。

一方改善点なんです、青葉区の方では、やはりこの若者主体でつくったマップをどのように活用していったらいいのかということでした。若林区の方は今後——実は来年度、大規模改修が

入り今使っている畑が使えなくなってしまうということで、今後事業をどうしていったらいいのかというお話しが出てきました。

共通するところでどうしても参加者集めに苦勞しているというお話しがあったんですが、そこに対して、例えば青葉区であれば、つくったマップを都市計画学とか地理学などを学んでいる学生さんのところに持ち込んで、PR も含めて活用していったらいいんじゃないかとか、つくった動画をどんどん YouTube 等にアップして積極的に情報発信していったらいいんじゃないかというお話しも出てきました。また、現在の市民センターはなかなか若者が自主的に足を運んでくれる場所にはなっていないのかなというところで、さまざまな仕掛けをして若者が足を運びたいくなるような市民センターをつくっていくといいんじゃないかというお話しが出ました。

グループ1からは以上になります。

会長：はいありがとうございます。グループ2お願いいたします。

事務局（第2グループ担当職員）：はい、グループ2です。

グループ2の方ではまず青葉区のほうで——青葉区というだけではないですけど、このコロナ禍の中でも多くのことができているということに素晴らしいのではないかというお話しがありました。青葉区の中では、活動中の参加者が他の活動者と交流することによって気づき、成長なんかが見られたという意見。それからやはり若者らしい視点での活動がなされているということ。

それからパンフレットの質がとてもいいというお話しがありました。このパンフレットの質がとてもいいという話をしたら、青葉区のセンター長が、印刷は自前でおこなっていて印刷会社に頼んだわけではないというお話しをされて、みんなでえーとなったところでした。というのは、難しさの面でもあるのですが、パンフレットを印刷するための予算をとっているわけではなくて、その年に学生たちが何をやりたいかを話し合ってたまたまパンフレットになったということなので、予算が予算化してあったわけではないということで、その辺の難しさもあるのかなという話もありました。

青葉区のほうの改善点ですけども、改善点というか来年度に向けて今年度に向けてなんですけど、このつくったパンフレットや動画をいかに外に発信していくかということが、これからの課題なのではないかなと。ひとつ例としては小学校の社会科の教材にもなるんじゃないかなという話もありました。

若林区のほうではやはりチャボ！、ジュニア、若者ということでもうまく市民センターに人がずっと居つくとか流れてゆくよさがあるのではないかと、幅広い参加者があってとてもよい。それからやはり被災地域というところもあり、その思いの強さっていうのがあらわれているのではないかという話になりました。

両方共通の話題として、参加者の確保というのがやはり話題になりまして、大学生はとても忙しいし、経済的にアルバイトが必要な子もいると。そういう若者を活用していく、と来てもらうってことを考えていかなければいけないのではないかということになりました。委員のほうから一つ提案がありまして、男女共同参画フォーラムにかかわっていらっしゃったんですけど、そこで大学生の参加を大学の単位の一環として認定してもらおうということがあったのだそうです。なので私たちも市民センターの地域活動とか地元の地域を考えるとかというのを大学の単位とうまくコラボしていけると、忙しい大学生がこちらに向くのかなという話になりました。とてもす

すべての活動が素晴らしいんですけども、今の大学生がわりと具体的な例を示さないとなかなか参加しにくい。例えばこういう活動をします、こういう活動をするのでこうしたいですという具体的な例があれば参加するんですけど、やりたいことみんなでやってみませんかとか、ふわっとするとなかなか参加がしにくいので、その辺も気をつけながらアピールをすればいいんじゃないかなという話になりました。

最後なんですけど、若いときの経験体験というのは人格形成の中でとても大事なもので、市民センターがよりどころとなるようなことを企画しながらやっていけたらいいんじゃないかなという話になりました。以上です。

会長：はい、ありがとうございました。ではグループ3をお願いします。

事務局（第3グループ担当職員）：はい、それでは第3グループです。

まず成果と今後に期待することというところで話をします。青葉区のまちづくり実践塾のほうについてはやはり動画、マップづくりがすごくよかったと。男子と女子の協力向上があって主体的な活動が見られたという意見が出ました。あと、横のつながりだけでなく昔のようすを調べたりというところで、歴史、縦と横のつながりがあったところがよかったという意見が出ました。

若林区の方については、先ほど第2グループにも出ましたが、やはり多世代交流、子ども事業、そしてジュニアリーダーも入って、さらには若者事業にもつながるといって、若林区の主査の話によればエスカレーター方式という——全員がそうなるわけではないんですけど、そういった流れが地域の中で、この市民センター事業の中であって、その中で地元愛、地域を大切にしたいという思いが育まれているというのがよかったという話でした。

共通してよかったと言われたのは、どちらも地元から学ぶということと、自分たちらしさが出ていたということ。あとは学習成果の評価という点については、評価することによって、世代によって若者は若者に、若者の評価、その実際地元のよさを見直すことができたという気づき発見があると。そういう感じ方が違うということがわかったのがよかったということでした。

課題・改善点については、一番最初に出ていたのが、若者というのが地域の中でなかなか見えづらいというか、小、中、高だと根っこが地域にあるので見えるんですけども、やっぱり見えづらい読めない世代だになってというのが現状あるという意見が出ました。

さらに、取り組みはすごくよいんですけど、若干まじめなところがあるのか、もう少し遊びがあってもいいんじゃないかなと。地域づくりに大事なのはよそ者、若者、馬鹿者、そのような意識や考えが刺激になる。市民センターとしてはそれを与えるところが大事なんじゃないかというところで意見が出ておりました。

あとPRが大切ということで、各区からも出ていたんですけども、やはり委員の中からも出ていたので——例えば、これは設備面の話かもしれませんが常に市民センターのフロアなどで動画を見られるような要素があってもいいんじゃないか。例えば今の世の中デジタルサイネージなんていうのもありますよね。そういうところでパッと、市民センターに来た方に見られるような仕組みがあってもよいのではないかな。

あとマップについて質問が出たんですけども、どこまで配架をされているというのがあったんですけど、いかがでしょう。

青葉区中央市民センター主査兼社会教育主事：マップの配架先は、今の段階では、まずマップに掲載されている店舗、青葉神社、各区市民センター、区内の市民センター、あとは6月19日に行われましたまち歩きフォーラムの方では来館された方に自由にお持ち帰りくださいという形で配付しています。

事務局（第3グループ担当職員）：さっきの予算の話もあるかと思いますが、そこは難しいのかもしれない。また町内会等での回覧というの、あってもいいのかという話もありました。

あと動画については、最後にでき上がった動画だけではなくて、一次的な——取材している様子などが見れるようなメイキング動画だったり、苦労等も伝えられるような、例えばNG集とかそういうところも見れるような動画をさらに見せるというの、よいのではないかという意見も出ました。

あと若林の方で白菜が出たんですけど、白菜のほかにもっと——伝統野菜についてさらに深めることもできるのではないかという意見が出ました。現実的には難しいかもしれませんが、実際にそれを何らかの形で販売とか、そういうことができるのであれば、さらに若者たちも本気になる可能性があるんじゃないか。そこはちょっとハードルが高いかもしれませんが、何らかの実行委員会形式とかということの可能性もあるのかも。

何はともあれ、この若者がやっていることに対してやはり周りの大人たちが実際に褒める、評価してあげるってことがこれからの若者事業やっている人たちの意欲向上とかにもつながるんじゃないかという意見が出ました。以上になります。

会長：それぞれ3つのグループのみなさん、グループ討議どうもありがとうございました。

社教主事の先生方もありがとうございます。今回、先生方グループにお二人ずつついでくださりまして、全国で一番ぜいたくな公民館運営審議会じゃないかなと思うんですが、ありがとうございます。

では全体総括として、各委員の皆様方から一言お願いいたします。こちらの第1グループから。

委員：きょうは非常に興味深い、私の大好物な話題2つだったので、実はここを一番楽しみにして来ました。マップそれから動画、そして白菜の活動ということで、それぞれ特色もあり、その周囲で手を差し伸べてくれている大人たち、市民センターの役割をひしひしと改めて感じることができました。

思ったことは、それぞれ人が足りないとか、後継者がとか、現地まで行く足がないとかという話もいろいろ聞いたんですけども、年に1回のメディアテークの大きなフォーラムだけでなく、例えばきょう発表された2つの活動のチームの10人なり15人なりが、市民センターを借りて、今回こういう話題で2つがテーマにあがったけれども1回この2チーム集まってみないってことで交流をしてもいいんじゃないかなって思いました。以上です。

非常に個人的な感想です。ありがとうございます。

委員：きょうは青葉区と若林区——若林区のこの事業は私長年すぐそばで事業を見ているものですから、この白菜の畑がなくなっていくのは非常に残念だなって感じはします。

今、若者は楽しくないとなかなか参加しないとか、いろんなこともあるし、さっきのよかった

ところをほめて伸ばすというのが非常に大事だなということ。

やはり責任を押しつけるとみんな逃げたがる、あとリーダーにもなりたがらないってということもあるので、その辺もうまく上手にほめながらやっていかないと、これからこういう活動にも参加してくれないのかなと。やはりみんなからやって楽しかったということが後ろに伝わってゆくと、またそこにも参加していただけるのかなと。そんな感想を持ちました。以上でございます。

会長：ありがとうございます。ではグループ2の方に行かせてください。

委員：今日はありがとうございました。私、仙白園の白菜を植えた次の年——次の年というか芽が出ましたというときに、畑を見せていただいたことがあって、その子たちがみんな大学生とかになったんだろうなあっていうふうに、今すごくひしひしと感じています。

改修で仙白園はなくなるかもしれないですけども、その子たちが培ってきたものというのは絶対消えないものなので、また再開できるのではないかなと思いますので、改修している間どこか畑を調達してきていただいて、子どもたちの意向を育てていただければありがたいなというふうに考えていますのでよろしくお願いします。

青葉区は子どもたちの視点の若々しさというのか、もう一步進んでもいいのではないかなというふうに思いましたけれども、さすが佐藤さん——プロが入るとまた素晴らしいものになっていくんだなというふうにも思いましたので、いろんな地域のプロの人たちにぜひ参加していただいて、声を聞かせてあげてほしいなというふうに感じました。ありがとうございました。

委員：2つの発表どうもありがとうございました。どちらもすごく楽しく聞かさせて見させていただきました。

両方ともコロナ禍の中でもこれだけの事業ができるのだなということ、市民センターの努力は大変だったなと思いつつながら、参加できた若者たちがすごくいい経験をしているなと感じました。これからの活動がすごく楽しみだなと思って聞いておりました。

青葉区のほうですけど、本当に市民センターの方たちが若者の目線になって一緒に活動して育てていっているんだなというのを感じました。男子学生の意見や女子学生の意見、お互いに協力し合っていく姿などもまた素晴らしいなと感じました。パンフレットもすごくクオリティが高くて、センター長さんが若者の意見も取り入れたとおっしゃっていましたが、すごくもったいないので、ぜひこれをいろんなところで活用できたらなと思いました。あと若者たちがプロの方とかかわることができたのも、本当によい経験になったんじゃないかなと感じていました。

若林区のほうですけども、白菜の収穫のときに視察に行かせていただいて、子どもたちと地元の方たちの交流——楽しむ姿を見ることができたのと、中学校に来ている大学生に、社会校育主事の方がボランティア終わったら白菜もらいに来てねって。収穫のときに遠慮もなく大学生がいっぱいもらいに行って、どうやって料理するんだろうって思いながらもすごく喜んでいたようすが今思い出されました。チャボ！から、ずっと小さいときからよいつながりをもって、ジュニアリーダーと若者とつながっていているんだなと感じました。ちょっと別のお手伝いに行かせていただいたときに、チャボ！の子とジュニアリーダーの子と若者と一緒の作業をするときにすごくよい縦の関係で面倒を見ていて、信頼されていて、自分たちも大きくなったらこういう若者事業とかジュニアリーダーとかになっていくんだなって、そういう具体例が示されているようでと

てもよい活動だなと感じました。

これからも期待しています。どうもありがとうございました。

会長：どうもありがとうございました。第3グループの委員の皆様お願いいたします。

委員：はい、今日はどうもありがとうございました。2つの事例を聞かせていただいて本当に大学生たちすごいなと思ったのと、どちらの事例も地元学としてすごいびつりの事例だったなと思いました。

地元学というのは仙台市宮城野区発祥というふうにいわれていますけども、地元から学んでいう——本当にこの2つの事例、伝統野菜にしても奥州街道のマップづくりにしても、大人と子どもたち若者たちが一緒になって事業を進めている姿をととても素晴らしいなと思いました。

先ほどからマップのクオリティの話がされていましたが、私は本当に何もしていませんね——お話しはさせてもらいましたが、青葉区中央市民センターさん中心に、きちんとレイアウトやらデザインやら何やらして、素晴らしいものに仕上げてくださいまして、私は小一時間ほどお話しした程度なのであんまり中身にはかかわっていないんですけど、あんな形でマップができあがってくるというのは若者たちの関心の高さ——自分事になっていって、どんどのめりこんでいる姿というのがああいう形になったんだろうと。ぜひぜひまち歩きなどにも使ってください、そしてさらに広がればよいなというふうに思いました。

先ほど第2グループの話聞いていてなるほどと思ったんですが、大学生たちをかかわらせるのに単位ってよいなって。これはよいんじゃないかと思ったので、お話しさせていただきました。きょうはどうもありがとうございました。

委員：どうも今日はありがとうございました。ほとんど出尽くしてしまっちゃべることがありません。

ただチャボ！という言葉が出てきて、私は去年初めて若林区中央市民センターに視察に行かせていただいたんですが、コロナ禍の中で子どもたちとは会うことができませんでしたが、取り組みとして先生方や市民センターの先生方の話を聞いて、すごいなと思って帰ってきました。そしてたらきょう、その若者事業に結局そのチャボ！の子供たちがつながり、ジュニアリーダーともつながり、すごく小さな世代からつながっている事業なんだなということに、すごく大きいんだなと思いました。

そして市民センターの館長さんのお話を聞きまして、子どもたちだけでなく、大学生や若者たちだけでなく高齢者、もういろんな世代を取りまとめているのが市民センターで、そのつなげていく役割を本当に頑張っていたきたいというか、仕掛けづくりとか、もっともっとしていただければ町の活性化につながるんじゃないかなと思いました。

ていうのも、私もずっと地域で今——防災とかやっても夏祭りもそうですし、小学生それから中学生高校生までは顔が見えるんですね。地元の地域の子供たちの顔が見えるのに、ある日突然——大学生あるいは社会人になるとまったく顔が見えてこないんです。お祭りに誘おうとしても大学生はいない。何年間も疑問に感じてまして、大学の先生たちに聞いたり学生さんたちに聞きますと、地方に、県外に、仕事に出かける人もいれば、大学に行く人もいます。またはその逆のパターン。それから大学生は忙しくてアルバイトを夜遅くまでしていたり。そういうので地域

から消えてしまうのかなって感じたことがありました。だからこの子たち、正実さんともかかわったりしてすごい子たちだな、うらやましいなと思いながらも、きょうは私にとってのヒントがたくさんありましたので、ここに参加してよかったなと思いました。

それで、5年前から、どうしても私たちの宮城野区若林区は浸水区域になっています。津波も来ました。それを私たちは覚えていても、今、小学校の5年生がもう知らないんですね。まったく知らない。地域の災害の履歴も知らないっていうことで、5年前から防災まち歩きをずっと実施してきました。それは小学生の親子の場合もありましたし、中学生の親子、高校生の親子——やっぱりここまでなんですね。でもやっぱりまち歩きってすごく大事で、いろんなことがわかってくる。子どもたちも興味を持つてくる。だからこれがを、やはり次世代につなげていけたらいいなって思いました。

特にきょう若林区と青葉区のお話を聞いて、やっぱりすごく大事なことなんだなって思いました。きょうはどうもありがとうございました。

委員：よそ者、若者、馬鹿者は刺激になる。まあ私は、多分この中の何か——皆さんに想像でお任せします。馬鹿者かもしれない。若者かもしれない。とにかく、よそ者っていうか、よその方が入ると——結構、地元ですついてもわからないんですよ、それが当たり前。いろんなところに寄り道しない。きょうこのマップを見て、70年も私ここに住んでいますが、わからないところがありました。本当にこれを見てありがたいなと、こんどここに行ってみようと思いました。青葉区の皆さん、ともかくよかったと思ひまして、こういうものを学生さんがつくったら、その学校で置いていただける場所がないかなってちょっと思っています。そうすると、そこから「これ誰作ったの?」「俺たちつくった。」とかなんとか。そうやって「市民センターでやってんだよ。」とかという、そういう口コミがすごくよいんじゃないかなって思いました。

あと、若林区の地元愛というか、白菜。本当に白菜って農家の方も丸めるのが大変みたいなんですよ、それを皆さんやって、農家さんの苦勞などわかって、またそれが収穫できたら、皆さんに食べていただいて、それでありがとう。っていう。そういうことを学べたっていうことは素晴らしいなって思ひます。これからもぜひもっとやっていただきたいと思ひます。

今日は本当に勉強になりました。ありがとうございました。

会長：どうもありがとうございました。後期以降の私の授業でも、授業の単位になれるようにちょっと頑張りたいと思ひます。

私のほうでは、県と市で、とにかく女子大生の首都圏流出って課題になっていますよね。宮城県仙台市地方振興事務所と打ち合わせして、3年間予算とれたなんて言うんで、勝手にプランを考えるのでなくて、当事者の学生に聞かないとだめだろうっていうことで、ずっと来てもらっていて、今日もヒアリングあるんです。今のところいろいろ出ている中で、もっと地域に愛着を持てるような取り組みを事前においたらいいいのではないかなということ。

今日2つの事例ですが、もちろん他の区でも、この素晴らしい若者事業やっていますね。ぜひさらにいろいろ建設的にどんどん進歩、進化すれば、素晴らしいんじゃないかなと思ひます。

どうも皆さん意見ありがとうございました。

では、次に(2)のその他でなんか皆さん、委員の皆さんからありますでしょうか。

[発言なし]

会長：ございませんか。では、事務局にお返しします。ありがとうございました。

3 その他

事務局：はい。それではみなさん本当にありがとうございました。

ここで、次回以降の会議についてご連絡をいたします。

お手元の資料の5をご覧くださいと思います。3月開催の審議会では、後期の日程をお示ししております、次回は令和4年9月1日木曜日としていたところがございますけれども、この回につきましては、この会場での協議にかえて、現地視察を実施したいというふうに考えております。

子ども、若者、大人の各事業について1回ずつ、計3回の視察の機会を設けますので、委員の皆様にはいずれか1回にご参加いただければというふうに考えております。具体の視察実施日や視察先につきましては、これから事務局で調整のうえ、あらためてお知らせしたいと存じます。

次にこの生涯学習支援センターで開催する、公民館運営審議会につきましては、11月10日木曜日となりますのでよろしくお願い致します。

この件に関しましてはよろしいでしょうか。

[発言なし]

事務局：では、それで進めさせていただきます。

4 閉会

事務局：それでは、以上で本日の審議を終了いたします。皆さん大変ありがとうございました。

以上

会 長

会議録署名委員